

# ひとひと 女性と男性がともに暮らしやすい 橿原市をつくるためのアンケート調査」 を実施しました

## アンケートでわかったこと

- 仕事と家庭生活の両立ができていない人はごくわずか。希望と違って、男性は仕事優先、女性は家庭優先の生活に偏っている人がたくさんいます。
- 家庭の中での仕事については、夫婦や家族が協力して行うことが望ましいという人が多くなっていますが、現実には協力して取り組んでいる人は少なくなっています。
- 配偶者やパートナーからの暴力（DV）として、大声でどなられたことのある人は女性の約 60%、男性の約 40%を占めています。女性のほうが男性よりも暴力を受けている割合が高くなっています。
- 固定的な性別役割分担意識（夫は外で働き、妻は家庭を守るべき）は女性の 39.4%、男性の 46.3%が賛成しています。
- 男女が平等になっていると思う分野は、【学校】で約 50%。他の分野では「男性が優遇されている」と感じる人が多く、【政治の場】【社会通念・慣習・しきたり】【社会全体】では約 70%となっています。

## 調査の目的

平成 25 年に策定した「橿原市男女共同参画行動計画（第 2 次）改訂版～にじプランセカンドステージ～」の計画期間終了にあたり、市民の男女共同参画に関する意識や実態を明らかにし、「橿原市男女共同参画行動計画（第 3 次）」の策定および今後の施策推進の基礎資料とすることを目的とする。

## 調査対象

橿原市にお住まいの 18 歳以上の市民 3,000 人  
(住民基本台帳から年齢階層別に無作為抽出)

## 調査方法

郵送による調査票の配布および回収

## 調査期間

2016 年（平成 28 年）11 月 12 日～11 月 28 日

## 調査内容

1. 家庭生活や子育て・教育について
2. 仕事について
3. 男性の家事等への参加
4. 女性に対する暴力や健康、地域でのことなど
5. 男女共同参画について

## 回収状況

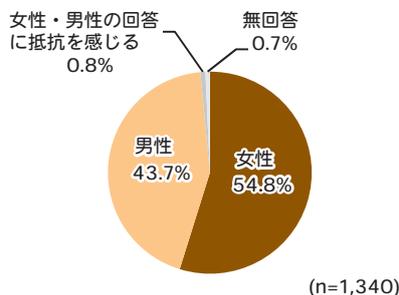
配布数	回収数（率）	有効回収数		
		女性	男性	性別不明
3,000 票	1,341 票 (44.7%)	1,340 票		
		734 票	586 票	20 票

## 報告書概要版の見方

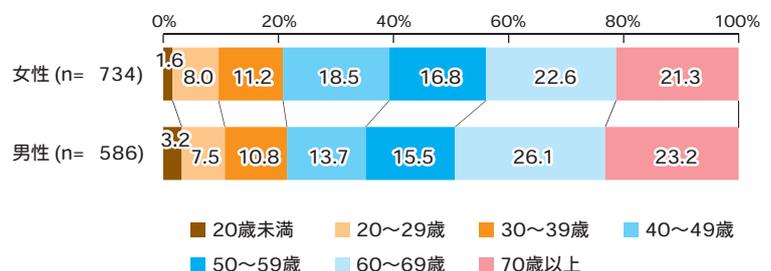
- (1) 図表にある「n」は、集計対象票数を示し、比率は「n」を 100.0%として表しています。
- (2) グラフの数値は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の場合は、合計が 100%を超える場合があります。

## 回答者の属性

### ● 性別



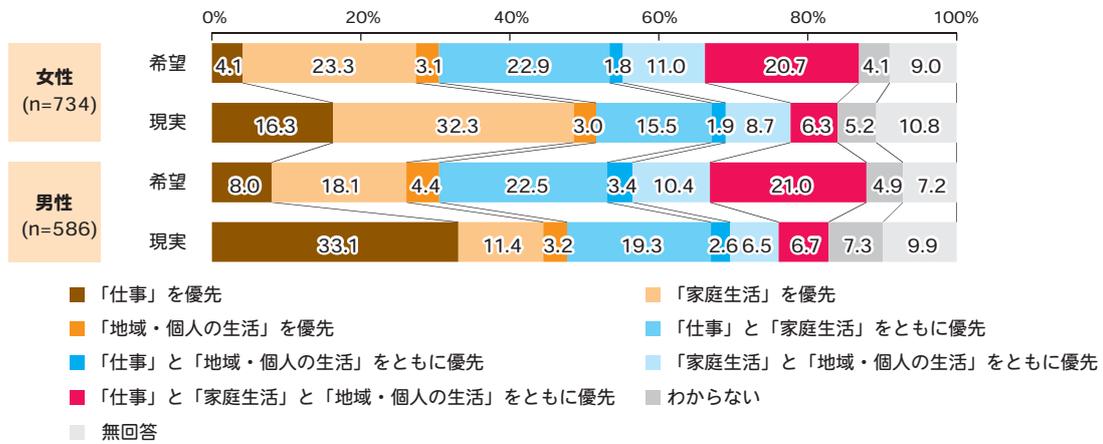
### ● 年齢



## ■ 仕事と生活のバランスについて



あなたの生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についておうかがいします。あなたの希望と現実と最も近いのは、次のどれですか。（1～8のうちから○はそれぞれ1つ）



### 希望と現実の生活のギャップは大きい

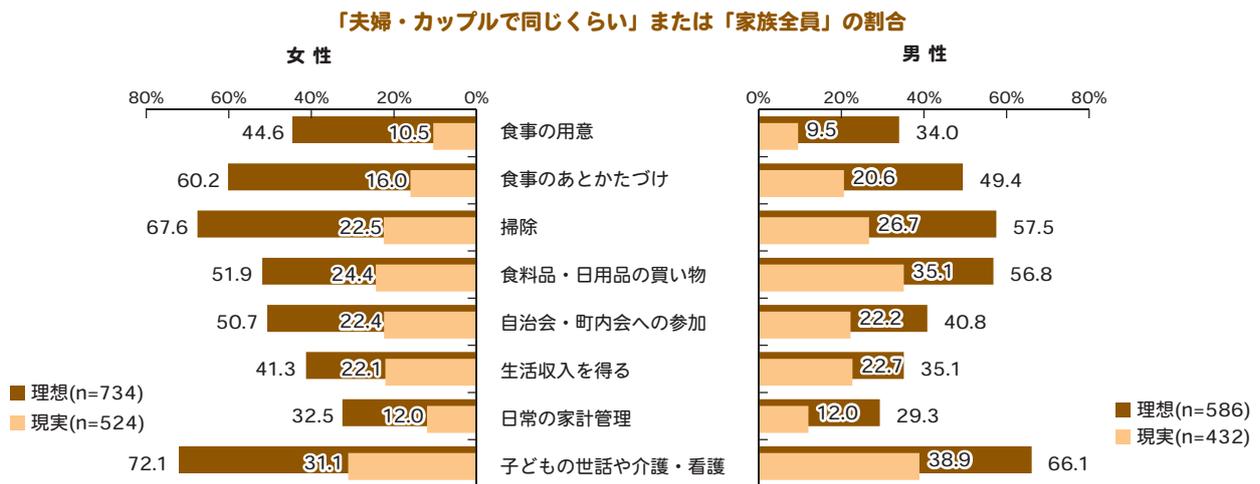
生活の中で優先したいものは、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいと『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいが男女とも 20%を超えており、仕事と家庭生活などのバランスのとれた生活を希望する人が多くなっています。

一方、現実では、女性は『家庭生活』を優先している、男性は『仕事』を優先している」と答えた人の割合が最も高くなっており、希望と現実のギャップの大きさがうかがえます。

## ■ 家庭生活について



あなたは、次にあげる家庭の中での仕事は、主にだれがするのが理想だと思いますか。また、配偶者・パートナーのいる方は、実際にどのようにしていますか。



### 家族全員が協力しあって家事などを行うことを理想としていても、現実に取り組んでいる人は少ない

理想では「食事のあとかたづけ」「掃除」「食料品・日用品の買い物」「子どもの世話や介護・看護」にはおおむね半数以上の方が「夫婦・カップルで同じくらい」または「家族全員」と回答しています。

しかし、現実の生活は、すべての項目で「夫婦・カップルで同じくらい」と「家族全員」の割合が理想より低くなっています。

## ■ 男性の家事・育児参加について



あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。  
(〇はいくつでも)

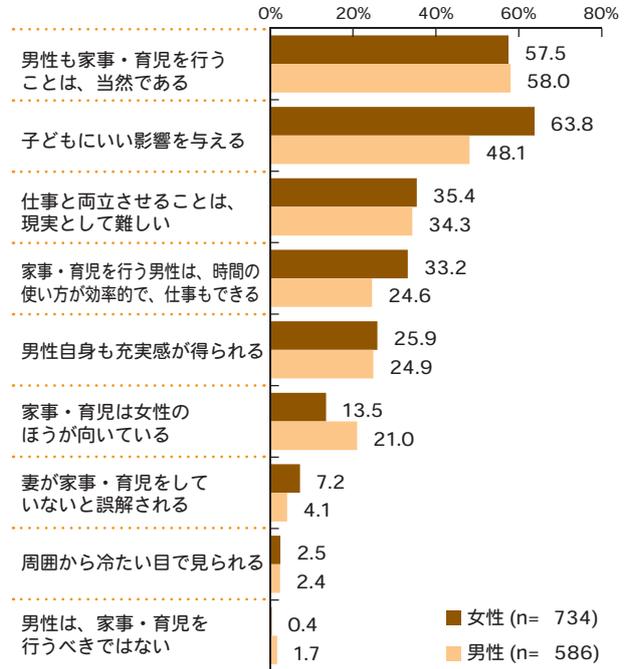
### 男性の家事・育児に前向きに

#### 考える人が多い

男性の家事・育児については、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」が女性 57.5%・男性 58.0%、「子どもにいい影響を与える」が女性 63.8%・男性 48.1%と、男性の家事・育児に前向きなイメージを持つ人が多くなっています。

しかしながら、「仕事と両立させることは、現実として難しい」の割合が女性 35.4%・男性 34.3%となっており、男性の仕事と家事・育児の両立が難しいと考える人は少なくありません。

また、男性では「家事・育児は女性のほうが向いている」の回答が 21.0%で女性より 7.5 ポイント高くなっています。



## ■ 人権の尊重について



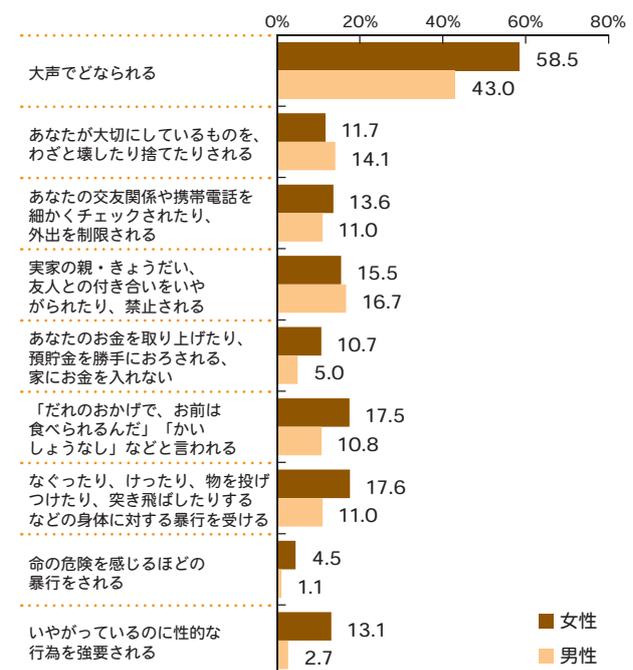
配偶者やパートナーのいる（いた）方は、次の行為を実際にされた経験はありますか。

### 女性の約60%、男性の約40%が大声でどなられた経験がある

ここであげている行為は、全て暴力にあたりません。

配偶者やパートナーのいる（いた）人のうち、相手から暴力の被害をうけたと答えた人は、【大声でどなられる】が女性は 58.5%、男性は 43.0%となっています。

また、女性の場合は男性と比べて【あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない】【「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる】【「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしょうなし」などと言われる】などの割合が高くなっています。

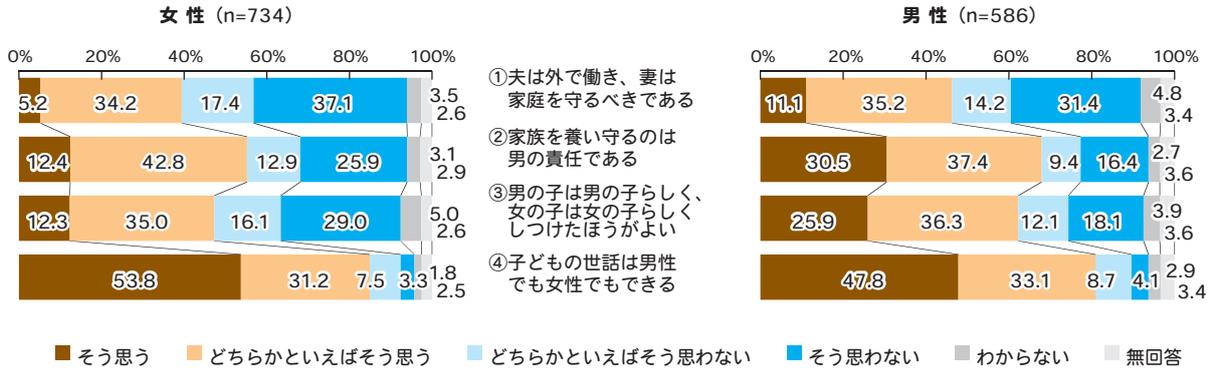


※数字は「何度もあった（ある）」と「1、2度あった（ある）」の合計

## 男女共同参画の実現について



あなたは、以下の考え方についてどのように思いますか。(○は各項目にそれぞれ1つ)



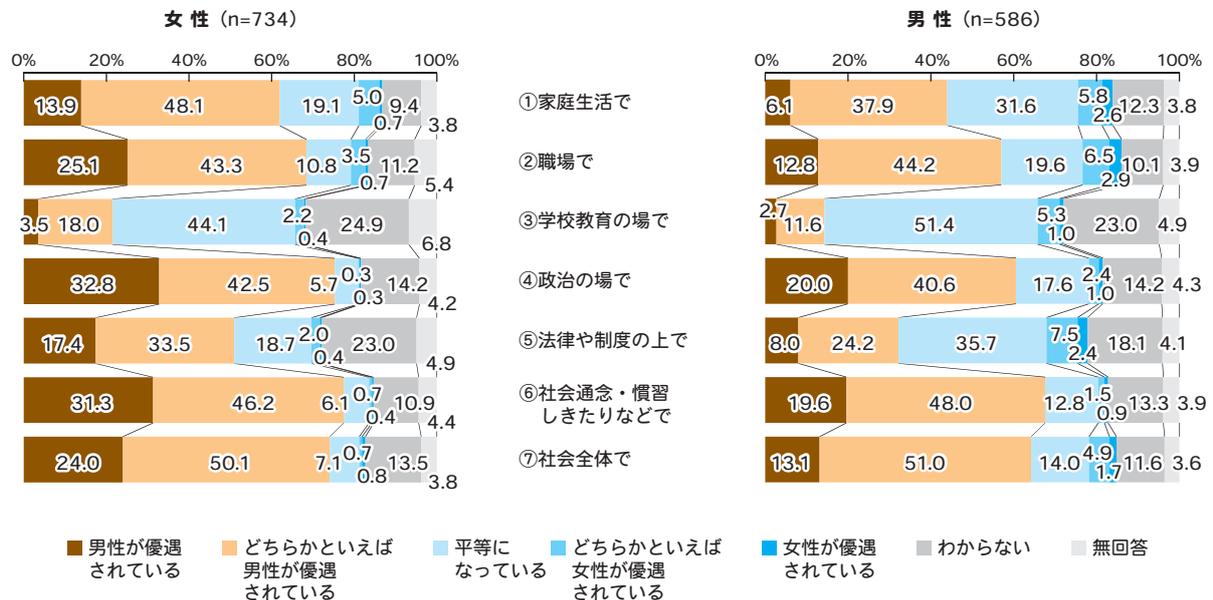
### 男性の約半数が「男は仕事、女は家庭」を肯定する

【夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】といういわゆる性別役割分担意識について、『賛成派』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合は、女性 39.4% に対して男性は 46.3% と高くなっています。

男性の場合、【家族を養い守るのは男の責任である】、【男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけたほうがよい】についても『賛成派』の割合が女性よりも高く、固定的な考え方が強いことがうかがえます。



あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。(○は各項目にそれぞれ1つ)



### 女性のほうが「男性優遇」をより強く感じている

社会における分野の男女平等について、『男性優遇』（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）と感じている割合をみると、女性の場合は【政治の場で】【社会通念・慣習・しきたりなどで】【社会全体で】で 70% を超えています。また、男性と比べて女性のほうがすべての分野で『男性優遇』の回答割合が高く、不平等感が強いことがわかります。

ひとひと  
女性と男性がともに暮らしやすい  
橿原市をつくるためのアンケート調査結果

概要版

橿原市 市民活動部 人権政策課

〒634-8586 奈良県橿原市八木町1丁目1番18号

TEL 0744-22-4001 (代表)

HP アドレス <http://www.city.kashihara.nara.jp/jinken/index.html>

※調査結果の詳細は URL をご覧ください